

事項三 日本公使館ニ於テ安福派領袖庇護一件

一六六 一月十一日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

公使館護衛隊兵営内ニ收容中ノ安福派領袖ノ

取扱方ニ関シ祝惺元ノ徳川へノ内話報告ノ件

機密第一三号 (一月十七日接受)

大正十年一月十一日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

我兵営收容中ノ安福派領袖ニ関スル件

我兵営ニ在ル安福派領袖行ク行クハ赦免ノ内意ニ関スル張志譚ノ高木陸郎ニ対スル内話及徐樹錚逃走ガ右内意ノ実現ニモ不少ル障害トナリタル旨ノ孫潤宇ノ土肥原ニ対スル内話等ハ夫々本人ヨリ御内聞ノコトト存候処一月七日祝惺元往電第一一号ノ用向キニテ徳川ヲ来訪ノ節同人ハ余談トシテ彼等ノ日本兵営ニ在ルコトガ何トシテモ支那国民ノ対日感

一六七 三月八日 岡警視總監ヨリ
芳沢重細重局長宛

日本ニ亡命中ノ王揖唐ノ言動報告ノ件

外秘乙第二九四号 (三月九日接受)

大正十年三月八日

亡命支那人王揖唐ノ言動

目下神戸市須磨町大久保方ニ滞在中ノ亡命支那人王揖唐ハ来ル五月頃上京シ親交アル某邦人ト共ニ長野県下ニ旅行スルヤノ趣ナルガ尚同人ハ過日犬養毅ト会見ノ際支那ノ時局ニ対シ左記ノ如キ談話ヲ為シタル由ナリ

左記

一、乱脈ナル支那内政ト諸外国ノ圧迫トハ支那ノ独立ヲ許サザルヤノ感無キニ非ザルモ余ノ観測ニ依レバ三年後ノ支那ハ段祺瑞ニ依リ統一セラレ面目ヲ一新スルニ至ラン目下反目シツツアル曹錕ハ兵力ニ於テ段ニ及バズ多大ノ兵力ヲ有スル張作霖ハ地ノ利ニ於テ段ニ如カズ若シ夫レ徐總統ノ如キハ置キ物ニ等シト云フモ誣言ニアラザルベシ

目下四面楚歌ノ中ニ在リテ風雲ヲ望ミツツアル段ニシテ

三 日本公使館ニ於テ安福派領袖庇護一件 一六七

二一七

情融和上大害アルコトニ言及シ去リ連是迄ノ筆法ニテ理屈一点張ニテ引渡ヲ求ムルモ日本トシテ之ニ応ズルコト能ハザルベキハ実ハ無理カラヌ事ナレバ支那政府トシテハ予メ内々充分日本政府ト了解ヲ遂ゲタル後其生命ヲモ保障シタル上大總統令ヲ以テ特赦ヲ行フカ若シクハ日本ニシテ同意スルニ於テハ一旦引渡ヲ受ケタル上形式上審問ヲ行ヒ証拠不充分トカ何トカシテ之ヲ放免スルモ差支ナカルヘク之ハ日本カ支那側ノ保障ヲ信用サヘセラルレバ早晚出来得ヘキコトト信ス尤其前中央政府トシテハ張作霖曹錕等ノ了解ヲ得ルコト必要ナルベキモ夫ハ先々大ナル困難ナカルベシト思ハルト語リタル趣ニ有之右ハ何等外交総長其他ノ旨ヲ含ミテノ言トハ思ハレズ全ク祝ノ私見ニ過ギザルベキモ支那政府筋ニ於テ右様日支国交上ノ見地ヨリ真摯ニ何トカ日本ノ面目ヲ格別潰サズシテ彼等收容ニ基ク対日悪感ヲ一掃セシコトヲ希望シ其方法ニ付何等カノ考慮ヲ繞ラシツツアルハ事実ナラムト存セラレ候御参考迄此段及報告候也

機ヲ得テ一度立タンカ事大思想ノ旺ナル支那ノ天下ヲ統一スルハ易々タリ而シテ機会ノ到来遅クモ今後三ケ年間ノ内ナルベク段ニシテ立タンカ余亦犬馬ノ勞ヲ辞セザル者ナリ

一、支那ノ現状ヨリ観測シテ或ハ過激派化スルコトナキヤヲ憂慮スル者アレドモ支那ノ文化及国民性ハヨリ之ヲ受ケ容ルルノ余地無カラシ尤モ目下青年中ニハ是等ノ思想ニ感染セシ者アル模様ナルモ這ハ国内ノ不統一外國圧迫ニ基ク一時的現象ニシテ到底永続シ且ツ傳播スベキモノニ非ザルナリ

一、排日問題ノ背後ニ米國ノ伏在スルハ事実ナルモ日本人ノ思フガ如キ大ナル勢力ヲ有スルモノニハアラズ偶々日本ノ対支外交失敗ノ虚ニ乗ジタルモノニシテ今後日本ニ於テ宣伝宜敷ヲ得バ親日的傾向ヲ挽回セシムル難キニアラザルベシ

一、歐洲戦争ノ結果独塊ノ勢力衰亡シ從來ノ二大勢力ノ權衡ヲ失スルヤ英仏等ハ刻々トシテ東洋ノ天地ヲ侵シツツアリ此ノ時ニ際シ区々タル感情ノ為メニ相反目スルガ如キハ自ら黄色人種ノ存在ヲ危クスルモノナリト謂フベシ

茲ニ於テ日本ハ支那ニ対シ一切ノ野心ヲ放擲シ之ヲ輔導スルノ策ヲ講ゼザルベカラズ然ラバ広大ナル土地ト自然ノ恩恵大ナル我が国亦日本ノ為メヲ計ルニ躊躇セズ云々 (以上)

註 右写ハ参考ノ為三月十一日附亜ニ機密送第四七号ヲ以テ内田外務大臣ヨリ小幡公使宛ニテ送付セラレタリ

一六八 三月二十六日 在中國小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

我兵營ニ收容中ノ安福派領袖ノ宿舍建増計画ニ関スル件

第二四三号 (三月二十六日接受)

當館護衛隊内ニ收容中ノ八名中段、王及曹ノ三名ハ本来身體虚弱ニシテ其健康状態良カラズ從テ現在ノ宿舍ニテハ夏期ノ酷熱ニ不堪健康上殊ノ外憂慮セル趣ヲ以テ且ハ現在ノ宿舍ノ手狭トヲ補フガ為メ自費ヲ以テ約六十坪バカリノ室ヲ現宿舍ニ建増ヲナシ度キ旨曩ニ南少將帰朝ノ際懇々願出ノ次第アリ同少將ヨリ當時本使ニモ内談アリタルニ付陸軍當局ニ於テ許可ノ意思アルニ於テハ本使ニ別段異見無之旨申述ベ置キタル次第ノ処今回陸軍側ニテハ愈々右許可ニ決

一七〇 五月三十日 在漢口瀨川總領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚漢口ニ潜在ストノ風説ニ関スル件

第五二号 (五月三十一日接受)

徐樹錚漢口租界内ニ潜在セリトノ風説アルモ同人ハ日本租界内ニ来住セシコトナシ又徐ノ来漢説ニ付テハ当地ノ支那官憲モ其事実ヲ疑ヒ居レリ 在支公使へ転電セリ

一七一 七月十三日 在中國吉田臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛

我兵營内ニ收容中ノ安福派領袖逃亡防止方ニ

関シ外交部ヨリ申越並我方回答報告ノ件

附屬書一 七月六日附外交部ヨリ在中國日本公使館宛寫

略写

二 七月十二日附日本公使館ヨリ外交部宛寫書

機密第一九九号 (七月十八日接受)

大正十年七月十三日

在支那

臨時代理公使 吉田 伊三郎(印)

三 日本公使館ニ於テ安福派領袖庇護一件 一七〇 一七一

定セル趣ナルニ付テハ右ノ次第一応御含ヲ請フ

一六九 五月二十日 岡警視總監ヨリ 芳沢亜細亞局長宛

兵庫縣ニ滞在中ノ亡命王揖唐ノ近況報告ノ件

外秘乙第六九〇号 (五月二十一日接受)

大正十年五月二十日

亡命支那人王揖唐ノ近況

目下兵庫県下須磨町上天神東七番地ニ亡命中ノ支那人王揖唐ト親交アル神田区淡路町一丁目一番地大井包高ハ同人ノ近況ニ関シ昨十九日当庁外事課員ニ左ノ如ク語レリ

記

王揖唐ハ南北和議代表トシテ起チタルモ安福派没落ト共ニ日本ニ亡命スルノ已ムナキニ至レリ而シテ爾來母國ノ形勢ヲ觀望シツツアリシガ最近ノ広東軍政府樹立其他北京政府動搖等ヨリ出馬スルノ機会ナキヲ著シク嘆シ此際寧ロ海外ニ渡ラントノ意嚮ニテ其ノ可否ニ付キ過日来親近者タル王樹人等ト打合セツツアリタルヲ以テ或ハ六月初旬頃比較的政争ノ關係ナキ南洋方面ニ赴クモノト察セラル云々 (以上)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

我兵營ニ收容中ノ安福派首領ニ関シ外交部來

照ノ件

過日當館晚餐會ノ席上顔外交総長ヨリ本官ニ対シ我兵營ニ收容中ノ安福派首領ノ逃亡セザルコトノ保証ヲ為シ得ベキヤト相尋候ニ付本官ハ支那側ニ於テ逃亡ヲ予防セムトスレバコソ公使館区域外入口ニ巡警ノ見張ヲ置キ居ルニ非ズヤト述べタル処外交総長ハ否逃亡セザルコトノ保障ヲ得バ右巡警ハ之ヲ撤退スル積ナリト云ヘルニ付本官ハ自分トシテハ未ダ右巡警ノ見張ニ対スル帝國政府ノ意嚮ヲ知悉セザルガ総長ハ右ニ関スル帝國政府ノ意嚮ヲ尋ネラルル次第ナリヤト申述候処外交総長ハ本件ニ関シテハ何レ書面ヲ以テ申進スル筈ナリト答ヘ候

越エテ去六日日本官並ニ徳川書記官葡萄牙公使ニ邂逅シタル処同公使ハ公使館区域入口ノ巡警立番ハ同区域ノ威敵ニモ関シ面白カラズト思ヒ首席公使トシテハ非ザルモ顔総長ニ面會ノ都度之ガ撤退ヲ慫慂シ居ル処同日朝同総長ハ日本政府ニ於テ安福派首領ノ逃亡セザルコトヲ保障スルニ於テハ右巡警ヲ撤退スル考ナル旨申述居リタル趣ヲ語り右ニ関

スル意嚮ヲ尋ネ候ニ付本官ハ団匪事變最終議定書ヲ按ズルニ該巡警ノ立番セル地点ガ多クハ公使館区域内ナルニ從來外交団ハ何故ニ外交部ニ抗議セザルヤヲ怪シムト述ベタルニ(小幡公使ハ右撤退要求ヲ主唱スルハ收容中ノ首領連ノ脱出ヲ容易ナラシムル為ト見ラルル虞モアリ之ヲ問題トスルコトハ態ト避ケ居ラレタル儀ト伝承致居候)葡萄牙公使ハ右ニ関シ本官ヨリ申出アラバ外交団ノ問題ト為スヘシト述ヘタルニ付本官ハ前記外交総長ト会話ノ次第ヲ内話シ本官ノ私見ニヨレバ右保障ハ之ヲ与フルノ義務アルヲ感ゼズ本来收容スベカラザル者ヲ收容シタルガ為右ノ如キ保障ヲ与フルノ義務アリト云フナラハ解シ得ベキモ本件ノ場合ハ全ク之ト異リ彼等ハ任意ニ當館ノ保護ヲ求メ當館亦正當ニ之ヲ応諾收容シタルニ外ナラズ且絶対ニ脱出ヲ予防スルコトハ為シ能ハザル次第ナレバ斯ル保障ハ与ヘ得ザル儀ト信ズト答ヘ徳川書記官ヨリモ該首領等收容當時ノ事情ニ適リ我方ノ立場ヲ説明致置候然ルニ恰モ翌七日外交部ヨリ別紙甲号写(及訳文)ノ通六日付節略ヲ以テ京畿衛戍総司令部ノ申出ニ基ク趣ヲ以テ該安福派首領等引渡以前ニ於テハ彼等ニ於テ再ヒ脱逃セザル様特ニ注意ヲ加フル様兵營ニ訓達

部ヨリ引渡ヲ求メタルモ今以テ未解決ナル処今般京畿衛戍総司令部ヨリ該禍首等ハ未ダ俄ニ引渡スコト能ハズト雖モ既ニ公使館ニ避匿セル以上彼等ヲシテ活動シ能ハザラシムベキハ当然ニシテ今般東交民巷附近ニ派出セル軍警ヲ一律撤退セントスルニ依リ以後該禍首等ニシテ再ヒ脱逃スルカ如キコトアラバ該公使館ニ於テ全責任ヲ負フベキモノナル旨申越セリ就テハ右ノ次第轉達スルニ付該禍首等引渡以前ニ於テハ特ニ注意ヲ加フル様貴館守備兵營ニ御訓達アランコトヲ要望ス

中華民國十年七月六日

外交部 啓

(附屬書二)

(別紙乙号)

七月十二日附日本公使館ヨリ外交部宛覚書写

覚書

日本公使館ハ其護衛隊兵營内ニ收容中ノ貴國人諸氏ニ於テ未引渡前ニ再ヒ脱逃ノ行為ナキ様格外注意スヘキ旨該兵營ニ飭知方七月六日付貴部節略ヲ以テ御来示ノ趣聞悉セリ然ルニ此等諸氏ガ日本公使館ノ庇護ヲ請ヒタルハ現ニ政治上

三 日本公使館ニ於テ安福派領袖庇護一件 一七二

方照会致越候ニ付予テ御訓示ノ趣旨ニ遵ヒ別紙乙号写ノ通り覚書ヲ以テ回答方取計置候間右様御承知相成度此段及報告候也

本信写送付先

天津、濟南、漢口、上海、南京、廣東、奉天、吉林

(附屬書一)

(別紙甲号)

七月六日附外交部ヨリ在中國日本公使館宛節略写

節略

貴館護衛營内收容中国禍首一案送経本部照請引渡迄未解決頃准京畿衛戍総司令部函称該禍首等雖一時未能引渡然既在使館避匿当然不能令其活動現擬將派在東交民巷附近軍警一律撤退嗣後該禍首等如再有脱逃行為由該使館担負完全責任等語合即轉達希

飭知貴館護衛營於該禍首等未引渡以前格外注意為要

外交部 啓

中華民國十年七月六日

(訳文)

貴館守備兵營内ニ收容セル中国禍首ノ儀ニ関シテハ迭次本

ノ理由ニ基クコト明ナル以上普通刑事犯罪ノ存否如何ニ論ナク之カ引渡等ノ要求ニ応ズルコト能ハザル次第ハ已ニ屢々声明ノ通ナルノミナラズ曩ニ小幡公使發願外交総長宛客年十一月二十七日付公文^(註)中ニ明記セル如ク日本公使館ハ未ダ曾テ貴国政府ニ代リテ右諸氏ヲ監禁シタル次第ニ非ズ又監禁スベキモノニモ非ザル以上今後若シ諸氏ニシテ其当初ノ請求ヲ撤回シ公使館ノ保護ヲ離レ自ラ貴国官憲逮捕ノ危険ヲ冒サムトスル場合ニハ公使館ニ於テ該兵營ヲシテ之ヲ阻止セシムヘキ權利義務共ニ之ヲ有セズ從テ特ニ之ニ備フル為兵營ニ飭知スルノ限ニ在ラザルニ付左様御承知アラムコトヲ乞フ

大正十年七月十二日

日本帝國公使館

註 大正九年十一月二十七日付公文ニ就テハ同年日本外交文書

第二冊上卷五八〇頁参照

一七二 七月二十二日

岡警視總監ヨリ
芳沢亞細亞局長宛

徐樹錚ノ動靜ニ関スル亡命中国人王樹人談話

通報ノ件

外秘乙第一一四四号 (七月二十三日接受)

大正十年七月二十二日

徐樹錚ノ動靜ニ関スル亡命支那人ノ談

神田区北神保町十番地

中国青年會館内

王揖唐 甥 王樹人

右者目下東亞予備学校ニ於テ日本語研究中ノ者ナルカ首題ノ件ニ関シ昨二十一日左記ノ談ヲ為セリ

記

一、徐樹錚ハ目下上海ニ滞在シ揚子江一帶ノ有力者ト交渉シ他日出馬ノ準備中ナリ目下陝西督軍陳樹藩ハ北京政府ノ命ヲ奉ゼズ閣相文ト衝突中ナルガ徐ハ陳ニ対シ暗ニ援助ヲ与ヘツツアリ盧永祥ハ自治ヲ唱ヘ北方政府ヨリ其ノ責任ヲ問ハレタルガ徐ハ同人トモ握手シ一面廣東政府ノ孫氏ト親シク交渉シ其ノ援助ヲ受ケツツアリ故ニ將來徐ノ出現ニ際シテ之ヲ阻害スルガ如キコトナカルベシ云々

一七三 七月二十五日 内田外務大臣ヨリ 在中国吉田臨時代理公使宛(電報)

我兵營ニ收容中ナリシ段之貴天津ニ脱出セリ

大正十年七月二十五日

在支那

臨時代理公使 吉田 伊三郎(印)

外務大臣伯麟 内田 康哉殿

我兵營ニ收容中ノ安福派首領ニ関シ外交部ヨリ更ニ来照ノ件

本件ニ関スル外交部来照ニ対シ七月十二日附ヲ以テ同部ニ回答ノ次第ハ七月十三日附機密第一九九号ヲ以テ報告済ニ有之候処今般更ニ外交部ヨリ別紙甲号写及訳文ノ通申越候ニ付別紙乙号写ノ通申送置候ニ付右様御承知相成度此段及報告候也

(附屬書一)

(別紙甲号)

七月二十二日附外交部ヨリ在中國日本公使館宛節略写

幕字第十二号

節略

貴館護衛管内收容中国禍首一案前准京畿衛戍總司令部来函擬將派在東交民巷附近軍警撤退嗣後該禍首等如再有逃脫行為由日本使館担負完全責任等因業經本部轉達

三 日本公使館ニ於テ安福派領袖庇護一件 一七四

トノ新聞報道ニ付問合ノ件

第三七三号(極秘)

七月二十二日貴地発報知其ノ他二三新聞特電ニ拠レバ段芝貴ハ約一箇月前秘カニ日本兵營ヲ出デ目下天津英租界ノ自邸ニ在リ而シテ右ハ支那政府トノ諒解ニ基クモノナリトノコトナル処右ハ貴官ヨリ何等報道無キニ願ミ多分事實ニ非ズトハ思考セラルルモ或ハ幾分ニテモ根拠アル次第ナリヤ為念何分回電アリタシ

註 右ニ関シ七月二十六日吉田臨時代理公使宛内田外務大臣宛

電報ヲ以テ左ノ通り回電セラレタリ

「貴電第三七三号ニ関シ事實無根ナリ」

一七四 七月二十五日 在中国吉田臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛

我兵營内收容中ノ安福派領袖ニ関シ外交部ヨリ再度申越ノ件

附屬書一 七月二十二日附外交部ヨリ在中國日本公使館宛節略写

二 七月二十五日附在中國日本公使館ヨリ外交部宛電書写

機密第二一九号 (八月一日接受)

貴館在案茲准京畿衛戍總司令部函称已於七月十四日將東交民巷附近軍警一律撤退等語合再奉達即希查照

外交部 啓

中華民國十年七月二十二日

(訳文)

節略

貴館守備兵營内ニ收容セル支那禍首ノ儀ニ関シテハ曩ニ京畿衛戍總司令部ヨリ東交民巷附近ニ派出セル軍警ヲ撤退セントスルニ依リ以後該禍首等ニシテ再ヒ逃走スルカ如キコトアラバ日本公使館ニ於テ全責任ヲ負フヘキ旨申越ノ次第アリテ既ニ本部ヨリ貴館ニ轉達セル所ナルガ今般京畿衛戍總司令部ヨリ已ニ七月十四日東交民巷附近ノ軍警ヲ一律撤退セル旨申越セルニ依リ併セテ再ヒ茲ニ通知スルモノナリ

外交部 啓

(附屬書二)

(別紙乙号)

七月二十五日附在中國日本公使館ヨリ外交部宛電書写

二二三

覚書

東交民巷附近軍警一律撤退ノ件ニ関シ七月二十二日附募字第十二号節略ヲ以テ御申越ノ趣聞悉尤右貴節略前段『該禍首等如再有逃脱行為由日本使館担负完全責任』ノ一節ニ付テハ業ニ本月十二日付覚書ヲ以テ日本公使館ハ此等諸氏ニ於テ今後其兵營ヲ退去セムトスルニ於テハ之ヲ阻止スヘキ權利義務共ニナク從テ右ニ對シ何等責任ヲ負フヘキ限ニ在ラザル所以ヲ聲明シアリ貴部在案ノ通ニ付右ニ御了承アリタシ

大正十年七月二十五日

日本帝國公使館

一七五 八月十二日

在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

我兵營ニ收容中ノ安福派領袖方保護ノ請求ヲ撤回セル場合ノ措置ニ付外交部ヨリノ申出ニ對シ回答ノ件

第五六〇号

(八月十二日接受)

七月二十五日付機密第二一九号拙信外交部宛覚書ニ對シ曩ニ八月十日付節略ヲ以テ曾毓雋等ニシテ当初ノ請求ヲ撤回

略ニ関スル件(關係電報往電第五六〇号)

本件ニ関シ左記書類及送付候也

書類要目

甲号 八月十日附外交部節略写

乙号 右ニ對スル八月十二日附外交部宛回答覚書写

(附屬書一)

(別紙甲号)

八月十日附外交部ヨリ在中國日本公使館宛節略写

募字第十四号

節略

貴館護衛隊管内收容曾毓雋等一事接准七月二十五日

節略備悉一是茲准京畿衛戍總司令部來函以東交民巷附近巡

警現已一律撤退請轉達駐京日本公使如該曾毓雋等向日本使

館或護衛隊撤回当初保護之請求時応請即時知照本國政府各等因相応奉達即希

セル場合ニハ即時支那政府ニ通知アリタキ旨衛戍總司令部ノ來簡ニ基ク趣ヲ以テ申越タルニ付十二日付ヲ以テ申越ノ趣聞悉右ノ場合ニハ遲滞ナク通知スヘキ旨覚書ヲ以テ回答シ置ケリ

一七六 八月十五日

在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

安福派領袖ノ日本兵營退去ノ場合ニ関スル外

交部節略写並日本側覚書送付ノ件

附屬書一

節略写

八月十日附外交部ヨリ在中國日本公使館宛右

部宛右覚書写

機密第二五〇号

(八月二十三日接受)

大正十年八月十五日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣伯爵

内田 康哉殿

關係電報往電第五六〇号

安福派領袖兵營退去ノ場合ニ関スル外交部節

査照為荷

外交部 啓

中華民國十年八月十日

(附屬書二)

(別紙乙号)

八月十二日附在中國日本公使館ヨリ中国外交部宛覚書写

覚書

日本公使館護衛隊内ニ收容セル曾毓雋氏等ニ関シ京畿衛戍總司令部ノ來函ニ基キ八月十日附募字第十四号ヲ以テ御申越ノ趣聞悉若シ同氏等ニ於テ当初ナシタル保護ノ請求ヲ撤回セル場合ニハ其旨遲滞ナク貴國政府ニ知照スヘシ
右回答ス

大正十年八月十二日

日本帝國公使館